

<50周年記念シンポジウム—4>～飛躍の未来に向けて～

## 神経内科専門医にとっての今後の新たな神経内科診療

鈴木 則宏

(臨床神経, 49 : 745—746, 2009)

Key words : 神経内科専門医, common diseases, 神経難病, プロフェッショナルリズム

かつてない人口の急激な高齢化にともなって、医療の分野もその迅速な対応をせまられていることは周知の事実である。高齢化にともなって発症頻度の高くなる疾患で、我が国の死因の高位を占める悪性腫瘍、脳卒中、心疾患に加えて、近年は直接の死因にならないものが高齢者の生活の質を脅かすものがいくつか注目されている。その代表が認知症であり、他は運動機能障害を発生するパーキンソン病をはじめとする神経変性疾患である。このような状況下で、一般社会からその予防と治療での貢献が大いに期待されるのは神経内科医、とくに神経内科専門医であろうことは想像にかたくない。

日本神経学会はその創立当初から質の高い神経内科医育成のため、医学部卒前卒後教育のカリキュラムの設定、生涯教育プログラムの策定と実施を絶え間ない努力を費やし続けてきた。しかし、もっとも社会のニーズに答えるべく神経内科医のプロフェッショナルリズムの確立に貢献してきたのは、そのアイデンティティーとも呼べる「神経内科専門医」制度を、他の医学会領域に先んじていち早く確立したことである。

しかしながらしらべたかぎり、これまで日本神経学会から神経内科専門医の理念と目指す方向については明らかに提示されたものはない。ただし、1998年、日本神経学会卒後教育検討小委員会が臨床神経誌上に発表した「神経内科卒後研修到達目標」の中に次のような部分がある<sup>1)</sup>。「わが国において、昭和39年、大学医学部に初めて神経内科学教室が設立されてから34年、昭和50年5月、標榜診療科として認められてから23年が経過した。この間神経学会認定医制度が定着し、現在3,000人を超す神経内科認定医が診療にあたっている。これにより、本邦における神経疾患に悩む患者さんの診断・治療は、大幅に改善しつつあるものと推定できる。従来、神経内科学の卒後臨床教育は、それぞれの研修病院において創意・工夫を凝らした教育がなされ、多くの優秀な神経内科医が社会に送られてきている。一方、現代社会において、医療に対する患者さんの期待・要求は極めて高く、我々もそれに応えてゆく必要がある。そのため、卒後臨床教育においては、どこで研修を受けても、ある一定レベルの研修が受けられる体制を整備する必要がある。即ち、広く豊富な経験を積み、どのような難しい患者に遭遇しても、沈着・冷静に的確な判断・診療のできる神経内科医を育てる体制を、全国的に作る必要がある時代に入っている。」(アンダーライン：著者)

すなわち、この目標の一文から、すでにこの時期から神経内科医のプロフェッショナルリズムに関する方向性が芽生えていたことを脈々と感ずることができる。

神経内科の疾患守備範囲を考えると、これほど広きにわたる診療科もないのでは、とも思えるくらい多岐にわたる。いわゆる common diseases の典型である脳卒中、慢性頭痛から有病率は低いが典型的な神経難病である筋萎縮性側索硬化症、Huntington 病にいたるまで、その疾患の多彩さと数の多さは他科に例をみないであろう。これらの広いスペクトラムを鳥瞰図的に眺めることができ、さらに個々の疾患に対する特異的診察とテーラーメイド治療を自家薬籠中のものとして適用しうる能力を備えた医師が神経内科専門医である。

近年、先に述べた医師の「プロフェッショナルリズム」とは何か、が話題となり議論されている<sup>2)</sup>。専門医はスペシャリストとも訳されるが、プロフェッショナルリズムという観点を導入すると、専門医とは高度な知識と技術によってクライアントの依頼事項をかなえる独立した(インデペンデントな)職業である、という解釈も成り立つ。社会への貢献を「利他主義」によって動機づけられていたかつてのプロフェッショナルリズムは近年、患者の福利優先、患者の自律性尊重、社会的公正性(医療資源の公平な分配をふくめ医療システムの公平性を促進)の重視、などの要素が中心となってきている。では、いったい「神経内科専門医にとってのプロフェッショナルリズムとは」何であろうか。「プロフェッショナルである神経内科専門医」として要求されることは、まず知識の修得だけではプロフェッショナルではないという意識、自らを律する自律性を持つ意識、高い倫理性をもつ意識、そして、社会的責務を自覚する意識、にまとめられる。さらに、組織としての日本神経学会に対して「プロフェッショナルである学会」として要求されることは、専門知識の教育の実践と普及、倫理的配慮の教育、社会的責務に対する役割の実践、社会保障政策に対しての積極的なかわり、社会的倫理的問題に対しての専門家集団としての十分な議論と提言、とまとめられよう。

現在の医療行政をとりまく状況では、厚労省、日本医師会、日本専門医評価・認定機構がたがいに四つに組み、その相互関係から専門医資格と診療報酬とは直接結びつくものではない。しかしながら、平成20年度診療報酬改定においてその改定版(平成20年7月)にて、日本神経学会認定神経内科専門

医に「神経学的診察料」に対して請求資格が付与されたことは、まさにその存在とアイデンティティーを確立することができたという意味で画期的であったといえる<sup>3)</sup>。

このように他の領域の専門医に先駆けて、資格の上に診療報酬上の重み付けという形でそのアイデンティティーを獲得しえた神経内科専門医は、その専門性を一般社会に還元付与するのみでなく、プロフェッショナリズムに立脚した独立した職種として自覚を持ち、さらに視野を広く保ち、社会に提言していくような存在として発展していくべきであると考え

## 文 献

- 1) 日本神経学会卒後教育検討小委員会：神経内科卒後研修到達目標. 臨床神経 1998 ; 38 : 593—619
- 2) 白衣のポケットの中. 医師のプロフェッショナリズムを考える. 宮崎 仁, 尾藤誠司, 大生定義 編：医学書院, 東京, 2009
- 3) D-239-3 神経学的検査. [医科] 診療点数早見表 (2008年4月/2009年4月増補版), 杉本恵申 編集協力：医学通信社, 東京, 2009, pp 278—280, 832, 872

## Abstract

### How ought to be the specialists of neurology certified by Japanese Society of Neurology

Norihiro Suzuki, M.D.

Department of Neurology, Keio University School of Medicine

In accordance with recent ever increasing numbers in elder population in Japan, number of patients of age-related neurological diseases such as stroke, dementia and neurodegenerative diseases, *etc.*, also remarkably increasing. Naturally, social needs for medical intervention in neurological fields inevitably become indispensable. The role of the neurologists, especially specialists of neurology, must be substantially important in the near future. The Japanese Society of Neurology has already launched the system for quality-certified specialists for neurology in 1970's. The aim of the system to educate and certify specialists for neurology has been announced as follows; the specialist of neurology must widely experienced and practiced in clinical fields, and must properly diagnose and judge the neurological illness even they are so complicate and difficult to manage (Rinsho Shinkeigaku (Clinical Neurology) 38 (6): 593-619, 1998). However, in future, the specialists for neurology must cultivate and keep the minds of "Professionalism" of physicians as well as their skills for clinical neurology. The Professionalism consists of altruism, accountability, excellence, duty, honor and integrity, respect and a personal commitment to life-long learning (ABIM: American Board of Internal Medicine, Project Professionalism, 1990-). The specialists of neurology with recent privilege in clinical insurance system for their special ability and techniques for neurological examination, should not only share their clinical specialty but also provide their opinion based upon Professionalism to all over the world.

(Clin Neurol, 49: 745—746, 2009)

**Key words:** specialists of neurology, common neurological disease, age-related neurodegenerative diseases, professionalism